研修名	食物アレルギーへの対応研修

＜効果的な実施時期＞
４月（年度始め）

１　研修目的

食物アレルギー症状が発症した際に取るべき対応について理解を深めるとともに、日頃から学校全体として取り組むべき校内体制について構築する。

２　研修の概要

アナフィラキシーは、非常に短時間のうちに重篤な状態に至ることがあり、迅速かつ適切な対応が求められる。そのため、年度始めに健康状況等を教職員間で共有する機会において、その対応や方法について教職員間で確認する。

３　進め方のポイント

（１）アレルギー症状が発症した時の素早い対応につなげるため、導入場面では実際に症状が発症した写真やイラストを提示し、教職員間で共通理解を図る。
※既往性のある児童生徒等のみが発症するとは限らないため、アレルギー疾患を抱えた児童生徒等の在籍に関わらず、全ての学校において、いざという時の対応を整えておく必要がある。

（２）講義形式での研修の他、エピペン®の保管場所確認や使用方法についての実技研修を取り入れるとより一層効果的である。
※実技研修は、各校でのエピペン®所有者の状況に応じて実施することが可能である。

（３）日常の取組と事故予防として、対象となる児童生徒等の保護者からの、医師の診断に基づく学校生活管理指導表に基づく個別の対応方針を教職員全員で情報共有する。給食や食物・食材を扱う授業・活動、運動、宿泊を伴う校外活動など、学校生活管理指導表における「学校生活上の留意点」に基づく取組を行う必要があることにも留意する。

４　準備物

○進行スライド（※各学校の実情に応じて修正可能）
○パソコン（タブレット）、プロジェクター、スクリーン（モニター）
○食物アレルギーを持つ生徒の健康状況（各校資料）
○エピペン®トレーナー
○（必要に応じて）危機管理マニュアル

５　研修のイメージ

＜展開：実技研修の様子＞

＜エピペン®使用例＞

＜エピペン®所有者の目印（例）＞

６　研修に参加した先生の声

○発症時には、どのような症状が表れるのかがよく分かり、迅速に対応することの重要性を理解することができた。教職員間での連携体制について、確認しておきたい。
○一瞬の判断の迷いが、子供の命に直結するということを改めて実感した。研修で学んだことを生かし、緊急時にはエピペン®を使用できるように日頃から意識を高めたい。

7　研修の進め方（例）【３０分】

※各学校の実情に応じて、エピペン®の実技研修（１５分）を後半部分に実施することも可能である。

時　間	内　　容	進　め　方	資　料　等
導入 （５分）	１　本研修の目的と流れについて理解する。　【一斉】	○実際に発症したアレルギー症状の写真を提示し、本研修への意識を高める。 「この写真を見て気になることは？」 ○症状が出た際は、迅速かつ適切な対応が必要であることを説明する。	進行スライド(1-5) 資料１
展開① （１５分）	２　食物アレルギーの症状について理解する。　【一斉】	○食物アレルギーの症状について、スライドを基に説明し、教職員間で共通理解を図る。 ○具体的な事例を提示し、摂取した量や体調によっても症状が表れることを説明する。	進行スライド(6-13) 資料１
	３　食物依存性運動誘発アナフィラキシーへの対応について確認する。 【一斉】	○食物依存性運動誘発アナフィラキシーについて説明する。 ○ハンドブックを使用し、発症時の対応や留意点について確認させる。 救命処置・エピペン®使用・１１９番通報	進行スライド(14-15) 資料２ （Ｐ１４～Ｐ１６）
展開② （１５分） ※必要に応じて実施	動画を視聴し、「エピペン®の使用方法」や「緊急時の対応」について理解する。 【グループ】	○動画を視聴させ、エピペン®の使用方法や緊急時における校内体制について共通理解を図る。 ○自校生徒が、エピペン®を保管している場所や目印等を教職員間で確認する。	資料３ エピペン®トレーナー
まとめ （１０分）	４　アレルギーを持つ児童生徒等への対応について確認する。　【一斉】	○自校の資料を基に、生徒の健康状況の確認や緊急時における校内体制について、改めて教職員間で共通理解を図る。 ○研修後、「スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）」等を校舎内に掲示する。	進行スライド(16-18) 食物アレルギーを持つ生徒の健康状況（各校資料） 資料４

＜活用資料＞

○（資料１）「食物アレルギーに関する基礎知識」（文部科学省）

○（資料２）「スポーツ事故防止ハンドブック（解説編）」
（独立行政法人日本スポーツ振興センター）

○（資料３）「緊急時の対応（学校におけるアレルギー疾患対応資料）」
（文部科学省）

○（資料４）「アナフィラキシーを知って防ごう」
（独立行政法人日本スポーツ振興センター）